

中国・義烏市でパン作りの指導をする I

杉野 一

義烏市は中国浙江省の中央にあり、省都の杭州から車で約2時間、上海からは4時間30分ほどのところにあります。2004年7月下旬、初めて義烏に行きました。行って知ったことは、義烏は先ず商人の町だということです。日用品の卸売市場があちこちにあり、世界的な日用品取引の中心地といわれているようですが、もともとは日本の近江商人のように天秤棒を担いで物々交換による商売から発展して来たのだそうです。



パン作りの指導を頼まれた義烏の「海洋酒店」

昔の日本の子守歌の歌詞に、‘でんでん太鼓と笙の笛’とありますが、そのでんでん太鼓の発祥の地も義烏と知ってびっくりしたりしました。

ところで、私が義烏に行った理由は、中国の友人からその義烏に新しく出来る「海洋ホテル」で美味しい日本のパンを作って欲しいと頼まれていたことによります。「8月にホテルが完成するので、中国に来るように」との連絡がその友人から届き、私は友人のマンションがある杭州に向かい友人宅に行きました。そして、その友人から私の居室として案内されたのは、なんと、竣工したばかりの、まだ湯気がほやほや立っているようなマンションの部屋でした。私は中国の友人の温かな心遣いを嬉しく思ったものです。

しかし、ここからが大変でした。早速ホテルがある義烏に連れて行かれ18階建てのビルの威容に目を見張りましたが、なんと内装はほとんど完成していないのでした。中国では列車の遅れなどは

よく経験しましたが、完成間際といって呼ばれたホテルの状態には啞然としました。そのような事情で、内装工事が終わるまでは杭州の名所めぐりでもしようと思い、西湖、六和塔、靈陰寺、花港公園、西冷印社などを巡る機会になり、それなりに楽しい日々を送りました。

8月初頭、義烏に再び行き、ホテル従業員の為に建てられた社員宿舎に入り、先ずはというので義烏の有名ホテルの朝のバイキングを試食して回りました。特にパンの味には注意し、又どのような種類のパンが並ぶのかなどを調べながら2週間が経ちました。その間にパンを焼く材料選びもしたのですが、当時の中国でこの材料選びはなかなか至難の業でした。しかし、これらの準備を続けながら、たった一人の日本人パン職人として改めて日本の美味しいパンを中国に紹介し根付かせたいと心に決めたのでした。

(続く)